

安全データシート (SDS)

1 製品及び会社情報

製品の名称

製品名 応急パンク修理剤
製品コード

会社情報

会社名 株式会社 MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町 2-183 リベル 3 階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX 番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
整理番号 M201130

推奨用途

応急パンク修理剤

使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない。

国内製造事業者等の情報

会社名称
担当部署
住所
電話番号
Fax 番号
電子メールアドレス
緊急連絡電話番号

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性
分類できない

健康有害性

眼に対する重篤な損傷性／
眼刺激性 区分 2
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分 1 (中枢神経系、血液系)
区分 3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分 1 (中枢神経系、呼吸器)

環境有害性

分類できない

GHS ラベル要素 絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
中枢神経系、血液系の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、呼吸器の障害

注意書き

[安全対策]

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急処置]

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性 情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

口、喉、胃に直接摂取すると、炎症を起こすことがある。
腹痛、吐き気などを起こすことがある。
皮膚への繰り返しの接触により、皮膚への刺激性を引き起こす可能性がある。
強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
中枢神経系、血液系の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、呼吸器の障害

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
プロピレングリコール*	57-55-6	化審法 2-234	30～60
グリセリン	56-81-5	化審法 2-242	10～30
デンプン	9005-25-8	化審法 8-98	< 1
水酸化アンモニウム	1336-21-6	化審法 1-314	< 1
二酸化ケイ素	7631-86-9	化審法 1-548	< 1
エタノール	64-17-5	化審法 2-202	< 1
その他の成分	-	-	< 10
水	7732-18-5	-	残量

*化学物質審査規制法 優先評価化学物質

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぐこと。大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断/手当てを受けること。 無理に吐かせない。

急性症状の最も重要な徴候症状

強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
中枢神経系、血液系の障害

遅発性症状の最も重要な徴候症状

長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、呼吸器の障害

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

症状に応じて処置すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、霧状水、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

火災時の特有の危険有害性

この製品は、通常の条件下では燃焼しない。

ただし、火災等の場合は、分解生成物として炭化水素が発生する。

大規模な火災では、加熱により、一酸化炭素、二酸化炭素、二酸化硫黄、窒素酸化物を含む有毒なヒュームが発生することがある。

特有の消火方法

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

流出物を封じ込め、排水溝や水路の汚染を防止すること。

砂や土などの不燃性の吸収材を使用して、流出物を封じ込めること。

吸入した流出物を収集し、適切なラベルの付いた容器に密封して、地方自治体の基準に従って廃棄すること。

汚染された区域を水で洗い流し、残留液を全て取り除くこと。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないようにする。 接触、吸収又は飲み込まないこと。 ミストや蒸気の吸入を避けること。 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。 十分に換気された場所でのみ使用すること。
接触回避 衛生対策	過度な熱、直射日光 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

保管

技術的対策	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質 保管条件	強酸化剤、酸 直射日光を避け、換気の良いなるべく涼しい場所にて保管する。 使用後は、元に容器に戻し、30°C以下で保管すること。 食品や食品容器から離して保管すること。
安全な容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

E = 3.0 mg/m³ (遊離けい酸を含有しない場合) (二酸化ケイ素)

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的指標)

ACGIH TLV-TWA (2020)	10 mg/m ³ (デン粉) 25 ppm, 17 mg/m ³ (水酸化アンモニウム (アンモニアとして))
ACGIH TLV-STEL (2020)	1,000 ppm, 1,880 mg/m ³ (エタノール) 35 ppm, 24 mg/m ³ (水酸化アンモニウム (アンモニアとして))
日本産業衛生学会 (2019)	2 mg/m ³ (第3種粉塵 (その他の無機および有機粉塵)、吸入性粉塵) (二酸化ケイ素) 8 mg/m ³ (第3種粉塵 (その他の無機および有機粉塵)、総粉塵) (二酸化ケイ素)

設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。
高温下や、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。
換気のよい場所で扱取り扱うこと。

保護具

呼吸用保護具	必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。
眼及び/又は顔面の保護具	眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

特別な注意事項

情報なし

9 物理的及び化学的性質

物理状態	浮遊粒子を含む粘性のある液体
色	無色
臭い	ほのかに甘い臭い
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	約 110°C (水)
可燃性	不燃性
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	不燃性
引火点	引火せず
自然発火点	不燃性
分解温度	情報なし
pH	約 9.35～9.65
動粘性率	50 cps (20°C) (ブルックフィールドアナログ粘度計：60 rpm) 100 cps (20°C) (ブルックフィールドアナログ粘度計：12 rpm)
溶解度	水に可溶
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数 (log 値)	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	比重：約 1.06 (20°C)
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	該当しない
VOC	< 1%

10 安定性及び反応性

反応性	通常の取扱い条件下では安定である。
化学的安定性	通常の手扱条件では安定である。
危険有害性反応可能性	通常の手扱条件では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	過度な熱、直射日光
混触危険物質	強酸化剤、酸
危険有害な分解生成物	加熱により、一酸化炭素、二酸化炭素、二酸化硫黄、窒素酸化物を含む有毒なフュームを発生することがある。

11 有害性情報

製品の有害性情報

急性毒性（経口）	口、喉、胃に直接摂取すると、炎症を起こすことがある。腹痛、吐き気などを起こすことがある。
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入）	吸入すると呼吸器系に刺激を与える可能性がある。
皮膚腐食性／刺激性	皮膚への繰り返しの接触により、刺激性を引き起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	眼を刺激する可能性がある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

成分の有害性情報

プロピレングリコール

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

グリセリン

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

デンプン

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

水酸化アンモニウム

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ = 350 mg/kg
急性毒性（経皮）	データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における液体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質の 20% 水溶液の適用により腐食性を示したとの報告があり、本物質は強アルカリ性のため、眼や皮膚に対して腐食性を

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	示すとの報告がある。 ウサギの眼に本物質 1 mg を適用した試験において刺激性がみられたとの報告や、ラットの眼に 28.5%水溶液を適用した試験で、角膜白濁や混濁など回復性のない角膜障害や血管新生が認められたとの報告がある。また、本物質は強アルカリ性のため、眼や皮膚に対して腐食性を示すとの報告や、粘膜に対して著しい刺激性を示すとの報告がある。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いた Open epicutaneous 試験において、20%アンモニア水溶液を適用した結果、陰性であったとの報告がある。
生殖細胞変異原性	<i>in vivo</i> のデータはなく、 <i>in vitro</i> では細菌を用いる復帰突然変異試験で陰性のデータのみである。なお、 <i>in vivo</i> ではマウスに腹腔内投与の小核試験で陽性結果が報告されているが、詳細不明である。
発がん性	国際機関等の発がん性分類はない。なお、個別の情報としては、ラットの飲水投与発がん性試験で、発がん性がないとの報告があるが、十分な情報ではない。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	本物質はヒトに気道刺激性があり、気道粘膜の重度の刺激や痛みを引き起こす。また、経口経路で口、喉、胃に重度の腐食性がある。吸入ばく露や経皮ばく露で神経学的影響が知られており、通常、直接ばく露部位の視力障害に限定されるが、より重度のばく露では血中アンモニア濃度の上昇を引き起こし、発作、昏睡、非特異的びまん性脳障害、筋力低下、深部腱反射減少、意識消失を生じ死に至る。本物質を経口摂取し死亡した疫学事例で、剖検の結果、食道、胃、十二指腸に出血が見られた。家庭用アンモニア（水酸化アンモニウム）を経口摂取した事例では、食道の病変及び浮腫、急性呼吸障害が報告されている。作業者がタンクから溢れた本物質の高濃度（10,000 ppm）にばく露された事例では、直ちに咳、嘔吐、呼吸困難、努力呼吸が現れ、ばく露 6 時間後に死亡した。解剖の結果、気道の著しい炎症、気管上皮の重度の剥離が報告されている。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	実験動物についてはデータが少ないが、ラットに 350 mg/kg の経口経路で、鎮静、ふらつき、異常姿勢、痙攣、振戦、運動失調、衰弱、眼瞼下垂、眼球突出、流涎、努力・不規則呼吸、下痢が報告（詳細な記載なし）され、区分 2 に相当するガイダンス値の範囲でみられた。
誤えん有害性	ヒトでは本物質慢性ばく露による影響に関して報告はない。実験動物ではラット及びモルモットにアンモニア水を 90 日間吸入ばく露した試験において、455 mg/m ³ の濃度で、呼吸困難、鼻腔の刺激がみられ、死亡例が発現したとの報告がある。
	本物質の経口摂取により、上気道に浮腫、火傷を生じることがあるとの報告はあるが、誤えん有害性を示唆する

知見はない。

二酸化ケイ素

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ > 3,160 mg/kg
急性毒性（経皮）	ウサギ LD ₅₀ > 2,000 mg/kg
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	ラット LC ₅₀ > 0.691 mg/L
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験（OECD TG 404）において、沈降シリカ（CAS 番号：112926-00-8）を適用した結果刺激性はみられなかったとの報告がある。また、形態の異なる沈降シリカ又は非結晶性シリカ（CAS 番号：112945-52-5）をそれぞれウサギに 24 時間適用した試験において、いずれも刺激性はみられなかったとの報告がある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験（OECD TG 405）において、沈降シリカ（CAS 番号：112926-00-8）適用による刺激性はみられなかったとの報告がある。また、形態の異なる沈降シリカ又は非結晶性シリカ（CAS 番号：112945-52-5）をウサギに適用した試験の報告が複数あり、眼刺激性はみられなかったとの報告や、軽度の結膜炎、軽度から中等度の結膜発赤、角膜混濁がみられたとの報告があるが、いずれの症状も回復性であったとの報告がある。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	<i>in vivo</i> では、経口投与によるラットの優性致死試験、経口投与によるラット骨髄細胞の染色体異常試験で陰性、 <i>in vitro</i> では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験で陰性、哺乳類培養細胞の小核試験で弱陽性である。
発がん性	本 CAS 番号が示す物質群はシリカ（SiO ₂ ）で、シリカの全形態が包含される。すなわち、本物質群には結晶質シリカが含まれ、その発がん性分類結果が適用可能と考えられる。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	シリカゲル（CAS 番号：112926-00-8）は気道刺激性があるとの報告がある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	ヒトにおいて、石英、クリストバライトでは珪肺症が報告されている。また、実験動物においても石英、クリストバライトで線維形成性があることが報告されており、そのほか、石英では自己免疫疾患、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性、溶融シリカで金属ヒューム熱のような復帰熱の報告がある。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
エタノール	
急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ = 6,200 mg/kg

急性毒性（経皮）	ウサギ LDLo= 20,000 mg/kg
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における液体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	ラット LC ₅₀ = 63,000 ppmV
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	ウサギに 4 時間ばく露した試験（OECD TG 404）において、適用 1 および 24 時間後の紅斑の平均スコアが 1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て 0.0 であり、「刺激性なし」との報告がある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギを用いた 2 つの Draize 試験（OECD TG 405）において、中等度の刺激性と評価されている。このうち、1 つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第 1 日の平均スコアが角膜混濁で 1 以上、結膜発赤で 2 以上であり、かつほとんどの所見が 7 日以内に回復したとの報告がある。
呼吸器感作性	アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられている。一方、軽度の喘息患者 2 人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されているが、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも報告されている。
皮膚感作性	ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告があるとの報告があるが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性がみられる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性はみられないことにより、エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」との報告がある。
生殖細胞変異原性	マウスおよびラットを用いた経口投与（マウスの場合はさらに腹腔内投与）による優性致死試験において陽性結果があるものの、試験条件の不十分性や試験結果の誤りなどが認められ信頼性は低い又は信頼性なしと評価している。また、ラット、マウスの骨髄小核試験で陰性、ラット骨髄及び末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性、チャイニーズハムスターの骨髄染色体異常試験で陰性である。また、マウス精子細胞の小核試験、精母細胞の染色体異常試験、ラット精原細胞の染色体異常試験、チャイニーズハムスター精原細胞の染色体異常試験（異数性）で陰性である。なお、陽性の報告として、ラット、マウスの姉妹染色分体交換試験がある。 <i>in vitro</i> 変異原性試験として、エームス試験、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験及び小核試験はすべて陰性と評価されており、 <i>in vitro</i> 染色体異常試験でも CHO 細胞を用いた試験 1 件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった。なお、この染色体異常の陽性結果は著しく高い用量で生じており、高浸透圧のような非特異的影響に起因した染色体傷害の可能性があるとの報告されている。
発がん性	エタノールは ACGIH で A3 に分類されている。また、IARC では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコ

生殖毒性	<p>ール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされている。</p> <p>ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられる。胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。</p>
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	<p>ヒトの吸入ばく露により眼及び気道への刺激症状が報告されている。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒（筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒（視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害）、さらに重度の中毒症状（嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など）を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると報告されている。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている。</p>
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	<p>ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行するとの報告がある。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの報告がある。なお、動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの90日間反復経口投与試験において、ガイドランス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている。</p>
誤えん有害性	<p>データ不足のため分類できない。</p>

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

成分の環境影響情報

プロピレングリコール

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

グリセリン

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

デンプン

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

水酸化アンモニウム

水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（ミシッドシュリンプ）96時間 LC ₅₀ = 2.81~98.9 mg total NH ₃ /L
水生環境有害性 長期（慢性）	甲殻類（ミシッドシュリンプ）32日間 NOEC = 3.47 mg total NH ₃ /L
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

二酸化ケイ素

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

エタノール

水生環境有害性 短期（急性）	藻類（クロレラ）96時間 EC ₅₀ = 1,000 mg/L 甲殻類（オオミジンコ）48時間 EC ₅₀ = 5,463 mg/L 魚類（ニジマス）96時間 LC ₅₀ = 11,200 ppm
水生環境有害性 長期（慢性）	甲殻類（ニセネコゼミジンコ属の一種）10日間 NOEC = 9.6 mg/L
残留性・分解性	BOD = 89%
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質（該当・非該当）	非該当
IBCコード（該当・非該当）	非該当

航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質審査規制法	優先評価化学物質（プロパン-1,2-ジオール）
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
労働基準法	疾病化学物質（アンモニア）
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物（アンモニア）（0.2重量%以上を含有する製剤その他の物。運搬・貯蔵中に固体以外の状態にならず、かつ、粉状にならない物であって、令別表第一に掲げる危険物、可燃性の物等爆発又は火災の原因となるおそれのある物並びに皮膚に対して腐食の危険を生じるものでないものを除く。） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（アンモニア、エタノール）（0.1重量%以上を含有する製剤その他の物） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（エタノール）（0.1重量%以上を含有する製剤その他の物）
消防法	非危険物
毒物劇物取締法	該当しない
大気汚染防止法	揮発性有機化合物（揮発性有機化合物）（排気）
水質汚濁防止法	有害物質（アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物）
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z類物質）（プロピレングリコール、グリセリン、エチルアルコール） 有害液体物質（Y類物質）（アンモニア水）（濃度が28重量%以下のものに限る。）
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項（非環式アルコール並びにそのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体）

じん肺法
輸出貿易管理令別表第1の16の項（無水アンモニア及びアンモニア水）
輸出貿易管理令別表第1の16の項（その他の無機酸及び無機非金属酸化物）
法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業（シリカ）（粉じん）

16 その他の情報

参考文献

株式会社 MonotaRO 提供資料

NITE GHS 分類結果一覧（2020）

日本産業衛生学会（2019）許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2020) TLVs and BEIs.

【注意】 本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。